

# 社員の「自律」と「協働」による業務外の取組み(『き・ず・な活動』)

三菱日立パワーシステムズ株式会社 江島 俊也

## 1. 『き・ず・な活動』とは

『き・ず・な活動』とは、三菱重工グループにおいて、社会貢献や社員満足度向上につながるテーマに賛同する仲間が、時間外に集まって取り組むコミュニティ活動の総称である。

この活動に取り組む際の基本コンセプトは「自律」と「協働」である。個別テーマは、社員自らが提案しており、「この指とまれ」式にメンバーを募ってチームを立ち上げている。また、いつまでに何をやるかも全てチームに任されている。会社組織の力を借りることもなく、成果が出た場合でも見返りはないものとなっている。

それでも、社内横断的に老若男女が『き・ず・な活動』に集まっており、会社の指揮命令はなくとも、それぞれのゴールに向けて自律的に活動は持続されている。

なお、本活動に参加した社員からは、「本来の自分に戻れた」「こんな素晴らしい人たちに会えて良かった」「報酬も命令もないのに皆、率先して動いているなんて!」「会社が改めて好きになった」といった声が聞かれており、退職後も地域活動に参加する意欲を持っている者が多い。

## 2. 活動の具体例

『き・ず・な活動』の下では、現在、全 27 チームが活動中である。以下では、主なチームの活動例を紹介することとしたい。

### 【小学生サッカー大会チーム】

当社工場6地区の小学生チームを対象に、予選を実施し、地区代表をJリーグ使用のスタジアムに招待して大会を行っており、地域の子どもたちや保護者の方々に喜んで頂いている。

大会の準備から、試合進行、審判、音響操作、引率等に至るまで、全てを社員スタッフのみで行っている。



### 【写真洗浄ボランティア・チーム】

災害で傷ついた写真や思い出の品を洗浄、修復しており、持ち主に喜んで頂いている。当活動は、東日本大震災の津波で散逸、損傷した持ち主不明の写真の洗浄から始めたが、これは約6年かけて完了したことから、現在では、洗浄の対象を日本各地の損傷写真に広げながら活動を継続している。

### 【理科実験出前授業チーム】

全国の小学校に出向いて、子どもたちに「くだもの電池」の実験などに取り組んでもらっている。そうした実験を通じて、子どもたちに科学の面白さを体感してもらうとともに、発電の仕組みや省エネルギーへの理解も深めて頂いている。

### 【開発途上国の飢餓対策支援チーム】

社員が社内食堂でヘルシー・メニューを食べる毎に開発途上国の子どもたちに給食が支援される仕組みを導入して、途上国支援を行っている。NPO法人TF T事務局と協力して、対象となるメニューを導入したり、自販機設置を設置したりしている。

このほかにも、社内保育園で人形劇を実演するチーム、外国籍社員・女性社員・工場間で交流を行うチーム、東洋哲学を輪読するチーム、介護やメンタルヘルスに取り組むチーム等、それぞれが熱心に活動を続けている。



### 3. 活動の意義と効用

真の幸福とは、持てる力を使わず楽をすることでもなく、疲労困憊するほど働いてお金を稼ぐことでもないだろう。それは自分が真にやりたい目標に向き合い、自分が持つ能力を発揮しながら、自律的に取り組むこと、そのような「時間の充実」を感じることはないだろうか。

この幸福感は他者への貢献を実感する時に大きくなり、独りではなく同じ志を持つ仲間と協働で取り組む時に相乗効果的に大きくなる。そうした喜びは、職業人であれば本来は本業（会社の職務遂行）の中で感じる事が可能なのだが、様々な事情でそれが難しい場合もある。

『き・ず・な活動』では、社員一人ひとりが、自分が休日を費やしてでも心底やりたいと思うテーマを対象に、自分の能力を活かし、仲間と共感しながら取り組んでおり、そうした「真の幸福」を感じる事が出来る場となっている。これが、愛社精神の醸成、自己肯定感とモチベーションの向上をもたらすのである。

また、『き・ず・な活動』を通じて、人間力も向上するであろう。人は失敗から多くを学ぶ。ただ、厳しい現代社会にあっては、結果を問われる本業での失敗は許されないもの

となって来ており、本業でリーダーになるには相当の業務経験を要する。一方、結果よりもプロセスが重視される『き・ず・な活動』では新入社員でもリーダーになれる。リーダーとなった若手社員が、年長者のメンバーを引っ張ってゴールに導くのは至難であるが、社外や本業に迷惑をかけない限り失敗は許容される。『き・ず・な活動』でのリーダーは、業務命令や報酬ではなく、情熱、努力、献身によって人を動かすという苦労を経験することとなる。ここで培われるのが人間力なのである。

そして、『き・ず・な活動』は、所属地域、職種、年齢、性別を超えた老若男女による活動であることから、社内に相互理解と相乗効果をもたらす。これが仕事の品質を高め、製品の品質向上やスピードアップにつながっていくものと信じている。

